

2023年度 ICT導入モデル事業に おける導入報告

せせらぎハウス黒部





導入機器

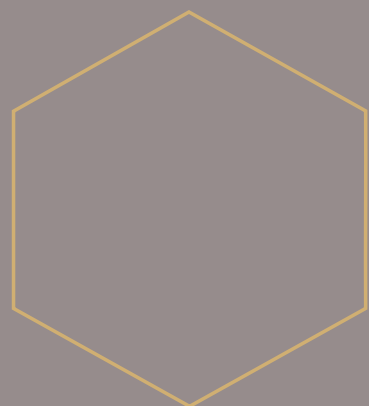
- ◆ デスクトップパソコン
- ◆ マウス付き無線キーボード
- ◆ モニター
- ◆ モニタースタンド（補助金対象外）



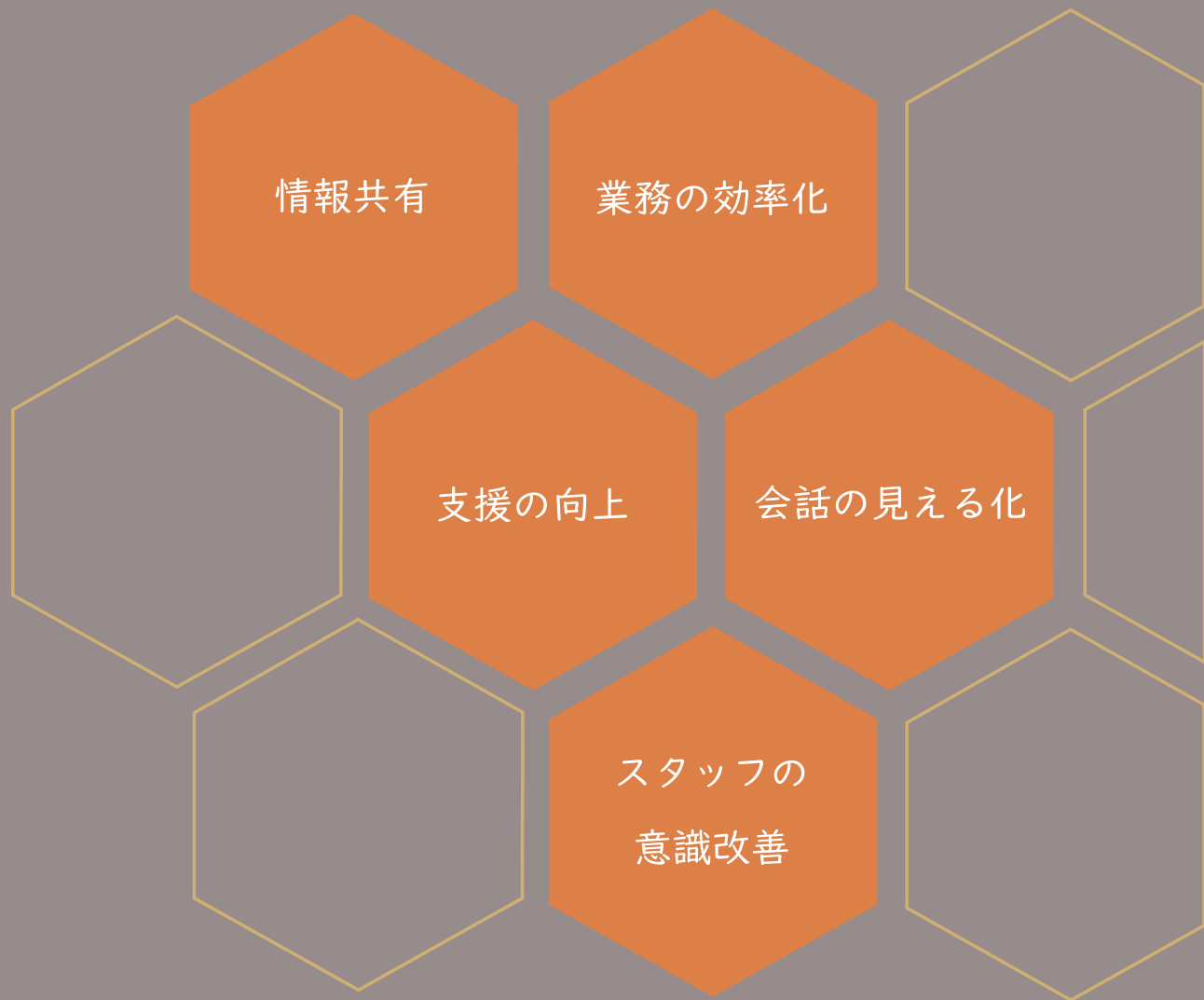
導入前の課題

個別支援計画への取り組み状況を確認するために、振り返りの面談を毎月全員に対して行っている。事業所内での作業への取り組み状況だけでなく、利用者の体調面や生活面も合わせてアセスメントし、個人をトータルとして支援するために、毎月の定期面談及び随時相談の時間確保に努めている。ひとり一人の利用者に時間を掛け、その思いに丁寧に寄り添うことで安定した利用に繋がるように支援している。

しかし、利用者全員との面談時間の確保に加え、その記録作成に費やす時間が多くなり、その他の業務との不均衡が生じ職員の負担となっている。



導入の推進方法



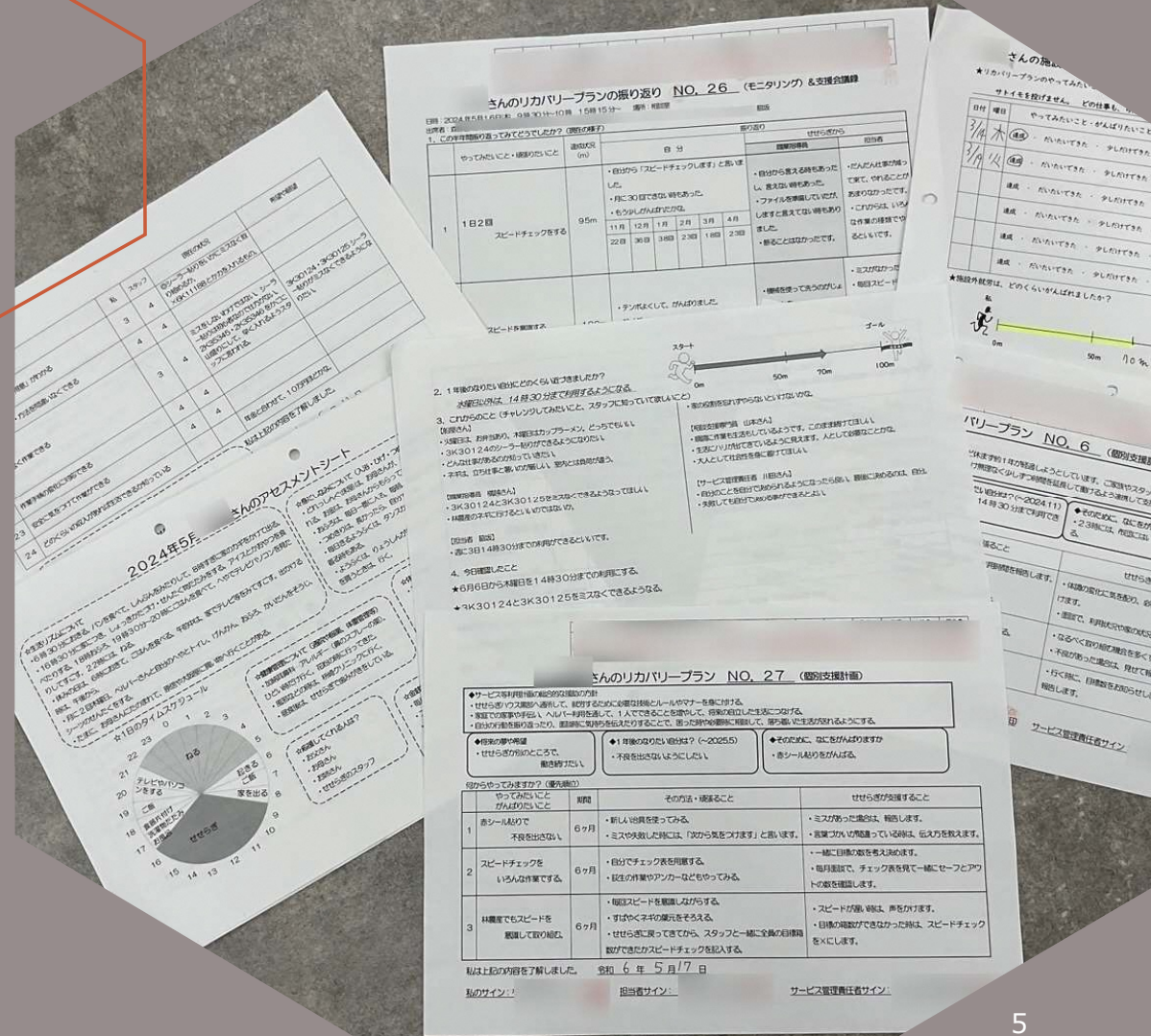
導入後の成果

業務の効率化

個別支援計画の作成やモニタリング・アセスメント面談、毎月の振り返り面談にかかっていた時間が30%削減された。文書作成量については、35%削減された。



- ◆ 利用者との面談記録作成の時間を別枠で取らずに面談中に同時進行で行うことができるので、大幅な時間短縮ができた。
- ◆ これまでは作成した記録を紙に印刷し、利用者に内容を確認してもらう時間が必要であったが、面談中にその場で済ませることができている。
- ◆ 内容確認のための印刷が不要になるため紙やインクの節約になっている。



導入後の成果

職員の負担軽減について

- ◆ 個別支援計画の作成やモニタリング、アセスメント等を行う際に、利用者と職員で話した内容をその場でパソコンに入力し、モニターに映し出して、お互いに共有しながら面談を進められるようになった。これまでは面談後にメモを基に記録を作成し、利用者に説明したうえでサインをもらっていたが、その業務に費やす時間を削減となった。
- ◆ 利用者が話したことを文章にして示すことで職員の解釈に相違がないかをその場で確認したり、職員から伝えた内容を口頭のみではなく視覚化することで意識づけできるようになった。
- ◆ 利用者が自分で入力することも可能なので、相乗効果として自由に自分の思いを表したり、パソコンに触れる機会にもなっている。



今後の課題

- ◆ 推進のために十分な予算がない。
- ◆ スキルをもった人材が少ない。

